

提 案 書

技術分野	①
提案名	10m角立方体タンク連接洋上細分管理保管 甲板で自然エネルギー発電売電により本事業費を回収
提案者 (個人名)	特定非営利活動法人 世界環境改善連合 (吾郷 巖)
<p>1, 技術等の概要 (特徴、仕様、性能、保有者)</p> <p>10m角程度の全溶接構造のタンクを直近の専用工場で製造し、2日分800トンずつ汚染水を収納し専用フォークリフト船で移動し、逐次フックで筏状に連結し洋上に保管する。365個(370m×100m)で2年分が保管できる。</p> <p>(1) 10m角のユニットタンクは2重底として安全性を高めると共に、空隙に線量計、水検知計を置き異常時又は常時、コントロールセンターへ送信。</p> <p>(2) 板厚25mm、巾は2.5m、長さは10又は20又は40m スペック寸法に切断し工場に搬入。注水ハッチ等小部材は外作搬入。</p> <p>(3) 専用工場を極力直近海浜部に建設、建家は20m×20m×50m程度、要員10名、主たる加工工程は、溶接、塗装。1箱2日で製造。専用フォークリフト船で受水場に運び、受水完了タンクを所定洋上に運び連結。</p> <p>(4) 1年分の甲板上には太陽光発電約1600KW (168万KWh/年) 風力発電2基=1万KW (1628万KWh/年) 買い取り価格制で評価すると年間4.5億円の益を生み、年々同額ずつ遞増。 汚染水発生問題が完了後も洋上発電基地となる。仮に同ピッチで続けば発電量は年々1千8百万KWh、4.5億円ずつ増加する。</p>	
<p>開発実用化の状況 (国内外での現場や他産業での実績例)</p> <p>新規、未開発の技術・設備は何一つ無く、全て完熟した技術・設備のみで可能であるから、製造工場完成後直ちにトラブル少なく移行できる。 過渡的に造船所、鉄鋼シアリングセンターなどで試作遠海路搬入もあり得る。</p> <p>開発実用化に向けた課題、留意点</p> <p>未開発では無いが実績例が少ない事項は</p> <p>(1) 線量計からの常時発信連絡 (2) タンクの係留。 (3) 太陽光発電の耐波浪性 (淡水湖沼では数例有り)</p>	